

取り壊し予定の温泉施設で都市型搜索救助訓練を実施



岳北消防本部 救助隊



平成22年10月5日、野沢温泉村の温泉健康館のざわにおいて救助訓練を実施しました。

訓練には当消防本部職員のほか、隣接する岳南広域消防本部、須坂市消防本部、新潟県から十日町地域消防本部の職員が参加し、2県4消防本部の消防職員30名で行われました。

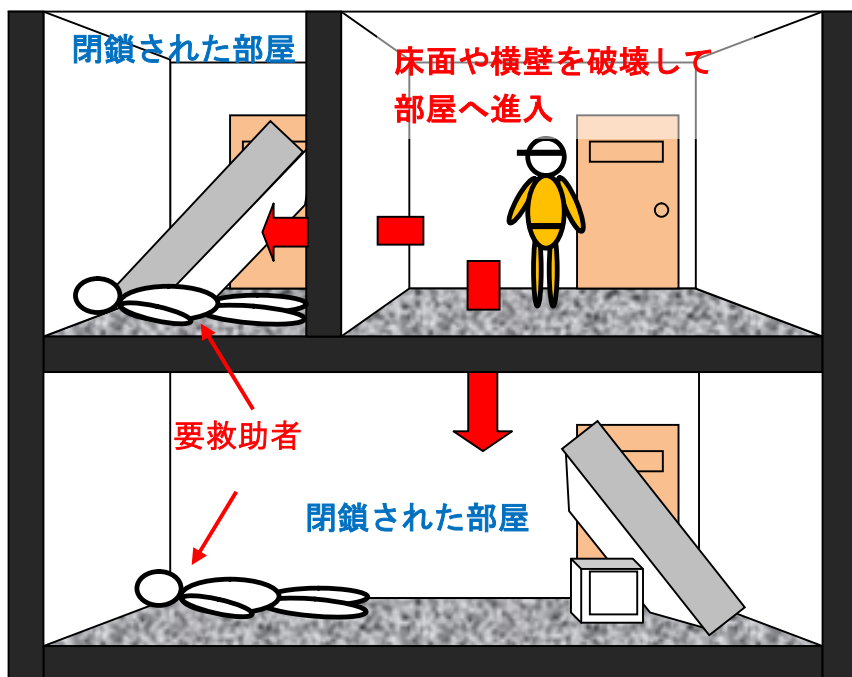
この訓練は、倒壊した建物内部から要救助者を救助するために必要な、進入・救出口の確保技術を身につけることを目的としています。

しかし、実際に穴を1ヶ所所床開けるのに約6時間はかかると言われています。

この訓練を通じ、建物の構造を知ることや、要救助者の救出に必要な穴を開ける知識、技術、時間を体験することが目的となります。



訓練想定 概略図



また、災害現場では数か所の活動が予想されることから、体力を温存させるための知識の習得も重要になります。

(要救助者：助けを待つ人、助けが必要な人)

知識・技術のレクチャー



消防署では、床や壁を破壊し要救助者を救出するためのエンジン式の救助資機材を保有していますが、地震等により多数の建物が倒壊した場合、人員的にも資機材の不足が考えられます。



今回は、主にバールやハンマーなどのハンドツール（手動）資機材を使用し訓練を行いました。



床面の破壊



床下の内部を確認するため、直径5cm程度の穴（サーチングホール）を開けています。



サーチングホールに防災カメラを入れて、床下の状況や、要救助者の有無を確認します。



モニターで要救助者を発見。



要救助者（人形）

要救助者の真上を避けて、救出するための穴を掘ります。



騒音のため、お互いの声が聞こえません。

このため、ジェスチャーを交えながら作業を進めていきます。



救出用の穴が開いたら、進入用の資機材をセット。

救出口から隊員が進入し、要救助者を救出します。



救出完了。

壁面の破壊



壁にマーキングをして、隣の部屋を確認するための穴（サーチングホール）を開けていきます。初めて顔を合わす隊員同士ですが、協力し、交代を繰り返しながら作業を進めます。



ハンドツールで壁面を叩くと、反動で後ろ側へ力が逃げてしまうため、後方で体を支えます。



隊員が通れる程の穴が開いたら、鉄筋の一部を切断。



穴が貫通するまでに約1時間15分かかりました。

訓練を実施して



長時間の作業となったため、参加隊員にも疲労の色が見えましたが、劣悪な環境下で長時間の活動を強いられながらも、次の現場で活動するための余力を残しておくことが重要であると感じました。



おわりに

大規模災害が発生した場合には、近隣消防本部との協力体制が重要となります。
今回の訓練を通じて、知識や技術を共有することが必要であると再認識するとともに、
今後も顔の見える関係を築いていくことが大切だと感じました。

また、今回施設を提供いただいた野沢温泉村と、資機材をお貸しいただいた長野県消防学校に感謝いたします。